

はだしのゲン

2012年に73歳で亡くなった漫画家の中沢啓治さんが、自身の広島での被爆体験をもとに描いた漫画。原爆で父と姉、弟を亡くした主人公・ゲンが「妻のように強くなれ」という父の言葉を胸にたくましく成長する物語です。1973年に週刊少年ジャンプで連載が始まり、単行本は平和教育に用いられるなどベストセラーに。映画やアニメ、ドラマにもなりました。

2012年、島根県松江市教育委員が全市立小中学校に子どもが自由に読めないようにするよう求め、問題になりました（後に撤回）。

原爆の悲惨さを描いた「はだしのゲン」の紙芝居が、全国的に広がっています。石川県の団体「『はだしのゲン』をひろめる会」がデジタル化し、CD-R

「はだしのゲン」
紙芝居広まる



された紙芝居は、5話分が1セットでした。今は絶版していますが、残っていた作品をデジタル化しました。

話題

OM（送料込み1000円）で売っています。写真。20年ほど前に出版